

# 技術移転費用と技術漏えいを考慮した南北技術移転モデル における途上国の IPR 保護強化分析

大木一慶<sup>1</sup>

## 概要

本研究では先進国から途上国への技術伝播の経路が海外直接投資（FDI）である南北技術移転モデルに、FDI 費用と内部的技術漏洩の可能性を新たに考慮した。この設定で途上国の知的財産権（IPR）保護が強化されたとき、先進国から途上国への技術移転が増加し、先進国と途上国間の賃金格差が縮小し、先進国における熟練・非熟練労働者間の賃金格差が拡大するという、多くの既存研究と同様の結果を得た。しかし途上国の IPR 保護強化と成長率に関しては、必ずしも正の相関にならないことを示した。成長率に対する効果は、FDI 費用の大きさ、FDI 費用の南北負担比率、技術漏洩に対する法整備の度合いに依存する。FDI 費用が大きく技術移転のために多くの先進国資源が必要な場合や、技術漏洩に対する法整備が整っていない場合は、途上国の IPR 保護強化は成長率を引き下げてしまう。この結果は GATT ウルグアイ・ラウンドにおける途上国 IPR 保護強化が、一部の国の成長を促進した一方で、一部の国の成長を阻害した可能性があることを示唆している。

JEL classification:F23、O11、O3

---

<sup>1</sup>〒560-0043 大阪府 豊中市 待兼山町 1-7 大阪大学大学院経済学研究科 E-mai:kazuyoshi.ohki@gmail.com